



## 北アフリカ地域ニュース

### リビア：シャルガム外相の米国訪問

(1月4-5日付 AFP 通信他)

シャルガム外相は、3日リビアの外相として35年ぶりにワシントンを訪れ、ライス国務長官と会談を行った。

1. リビアと米国は、科学技術協力に関する協定に調印した。シャルガム外相は「この出来事が両国関係の前進に資することを期待する。教育及び文化での協力関係の開始につき、神に感謝を述べたい」と述べた。
2. 他方、米務省は、「ライス国務長官は、シャルガム外相に対し、もし米国との友好における利益を完全に享受したいのであれば、人権問題を改善すると同時に、パンナム航空機事件（ロッカビー事件）及びラ・ベル事件（注：1986年4月5日、西ベルリンのディスコ「ラ・ベル(La Belle)」で二名の米軍兵士がテロによって死亡し（260名以上が負傷）、その容疑者がリビアの情報部員であるとされている事件。同年4月16日、米国はトリポリとベンガジを爆撃し、それによりカダフィ指導者の養女を含む数十名が死亡した。ロッカビー事件は米国の報復に対するリビアの再報復としばしば言及される）の遺族に対して補償を完結する必要がある」とコメントしている。
3. しかしながら5日、シャルガム首相は、ライス国務長官との会談において人権問題について協議したことを否定し、「リビアは人権擁護における模範となる国である。リビアが内政干渉を許さないことを米国は知っている。米国を含む他の国々にこそ人権問題があるのではないか。ライス国務長官との協議は、主に二国間関係の強化とダルフル問題や、他の国際紛争地域における軍の派遣方法等が焦点となった」と述べた。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799